



平成29年3月1日 現在
 総世帯数 7,397世帯
 総人口 16,875人
 男 8,435人
 女 8,440人

芳川公民館報 400号記念座談会

芳川公民館報400号を記念して、歴代公民館長・編集委員、現役のメンバーに集まっていたき座談会を開きました。

田中：公民館長は、かつては非常勤で出勤日数も少なかつたようですが、私の頃から増えてきました。当時は、福祉ひろばの建設場所を巡る議論があり、私はやはり公民館活動との一体性という観点から現在地をおし、その後を見るといい判断だったと思っています。



第10代公民館長
平成10～15年まで6年間
田中 典方さん(野溝)

上村井：私の頃には、もうほとんど常勤で、優秀な主事さん



第11代公民館長
平成16～19年まで4年間
上村井 淳さん(村井町)

に尻をたたかれながらやっていました。ちょうど市制100周年で平田駅が開業し、翌年には才学園が来たり、変化の時代だったので、かつての芳川の姿を残すべく100周年に合わせ古く写真の発掘につとめました。

村田：その写真があるおかげで、芳川の今昔物語にも活用できています。

市村：私は、芳川の出身ではないのですが、館報の編集や妻



28年度館報編集委員副委員長
平成23年～(6年目)
市村 洋一さん(小屋)

が地域の活動に積極的に参加しているの、新しい発見をすることができました。

井上：私もそうなのですが、編集委員の先輩から、しっかりと取材をして記事を書くトレーニングを受けたので大分詳しくなりました。委員を離れても館報は注目して読んでいます。



前館報編集委員
平成21～26年まで6年間
井上 和代さん(小屋)

吉井：活字離れが言われていて、出来るだけ写真を活用した紙面レイアウト

に心がけていますが、写



真集ではないので記事とのバランスが大事だと思っています。

村田：館報の全市版に関わっていますが、芳川版は変わった、読みやすいと言われています。

征矢：私は編集委員2年目で



28年度館報編集委員委員長
平成27年～(2年目)
征矢 安由さん(村井町)

すが、芳川には色々な動きがあつて活発なところで、話題も豊富などころだと感じています。

田中：少子高齢化といわれていますが、芳川では毎年200人位赤ちゃんが生まれているはずで、公民館活動と子育て支援の連携も大事だと思います。

柏澤：芳川の高齢化率は22%で、松本市全体の29%を大きく下回っています。

上村井：子育て支援では、保育ゆりかご会の貢献が大きく、会のメンバーが未就学児の面倒をみてくれるのでお

あさんたちは、公民館活動に参加できています。育児サークルばかりも喜ばれていますね。

村田：芳川の館報は、200号の時に縮刷版を出しています。



全市版館報編集委員兼務
平成21年～(8年目)
村田 正幸さん(野溝)

400号の区切りなので、合冊版の検討もしているところ

です。

上村井：館報そのものが芳川の歴史ですね。前回の縮刷版を読むと「こんなことがあったのか」という発見があります。

井上：私たちのように芳川に

来た人向けに、簡単に芳川の歴史や特徴が分かるものがあればいいなと思っています。

柏澤：芳川は昭和の合併地区では一番発展したところで、館報は地域の情報誌の役割も果たしているの、これからも親しまれ読みやすい館報に、心がけて行きたいと思っています。



第14代 芳川公民館長
柏澤 由紀一



いきまますので、次回は
お友達なども誘って、楽しさの和を広げてもらいたいと思います。

2月26日(日)芳川体育館でニュースポーツ体験会が行われました。芳川体育協会の企画で、年間3回の体験会を行っています。今回は、地区内から40名ほど参加し、10種目ほどの競技を体験しながら、3時間楽しく汗を流しました。ニュースポーツというと、なじみがなく、難しく感じてしまいがちですが、小さなお子さんから高齢の方まで幅広い世代でできるものが多く、気軽に遊ぶことができます。
もっと気軽に楽しんでもらうために、来年度からは地域づくりセンターにあるニュースポーツ・わたあめ器などの道具の貸し出しを行います。町会や学校等にルールブックも配布しますので、気軽に活用してください。

町会でも楽しもう！ ニュースポーツ



▲明治35年撮影

芳川の今昔物語 第21話 村井駅が開業

その昔……

篠ノ井線の西条～松本間が延伸開業したのは、明治35(1902)年6月15日です。松本～塩尻間が延伸開業したのは12月15日、篠ノ井～塩尻間が全通しました。中央東線は岡谷～塩尻間が開通していなかったの、信越線経由で上野発着列車が2往復設定され、東京とも直通列車で往復できるようになりました。



▲平成29年3月10日撮影

現在は……

村井駅周辺も発展して明治時代とは様変わりしています。村井駅の屋根は葺き替えられています。建物は建設当時のままの姿を残しており、115年もの永い時代を見つめてきた駅舎です。



三世代家庭が少なくなり、おばあちゃんの知恵袋にふれる機会もなくなってきましたが、芳川地区では、食育学級を通して地域に伝わる文化も一緒に伝えていくと感じました。

毎年、芳川公民館と芳川保育ゆりかご会の共催で行っている食育学級は今年度も大人気。20組を超える親子の参加があり、年間を通して畑で野菜等を育て、最終回は、保育ゆりかご会の皆さんの指導で、地域に伝わる伝統のおやき作りに挑戦しました。若いお母さんたちは包む作業に苦戦しながらも、楽しんで作っていました。お昼は作ったおやきと地元野菜がたくさん入った豚汁を食べました。普段は野菜が苦手、残してしまう子どもたちもお母さんの分まで食べたり、おかわりするほど美味しく食べていました。

あたたかおやきはふるわりの味



たちばなし

今年の冬は、西日本で大雪に見まわれ、車が立ち往生したり、事故が発生している。これも異常気象の影響なのか。雪下ろしや屋根から落ちて来た雪により、痛ましい事故も起きています。長野県も北部では大雪に見まわれた▼私の子供の頃は、雪が沢山降ったので、田んぼで雪だるまを作ったりして、遊んだ思い出もあるが、だんだんと雪も少なくなっている。忘れた頃に大雪が降って大変な事になってしまいが、今年の松本は二十センチの積雪が一度あったが、今のところは雪も少なくありがたい▼全国的に寒気と乾燥が続いており、インフルエンザが流行している。だいぶインフルエンザの患者数が減少してはいるものの、今まだ医療機関の患者数が警報レベルになっているとの事。予防接種をしても、インフルエンザにかかってしまう事もあるが、軽症ですむのだから予防接種は受けた方が良いと思う▼まだ、寒い日が続いているが、日ざしは大分春めいて来ている様に感じる。三寒四温をくり返し春になっていくのだが、早く桜が咲く季節が来てほしいものだ。今年も一年穏やかに過ぎてほしいと、願うばかりだ。